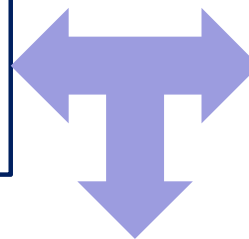


【資料2】 令和5年度・6年度の 取組方針について (修正案)

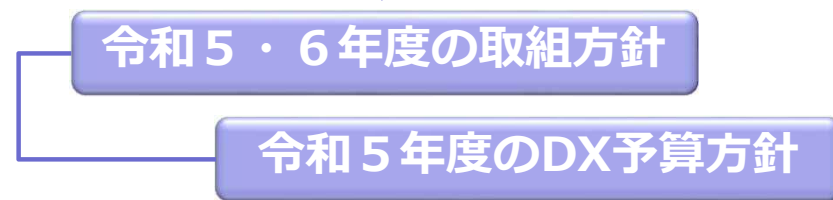
デジタル化推進本部事務局
(総務部 情報戦略課)

(1) 考え方について

＜将来像・ロードマップの実現に向けて＞
○10年後・3年後、それに向けたロードマップを実現するにあたり、概ね全庁的に必要な取組などに資する予算などを重要視



＜政府・府省庁の動向＞
○骨太の方針、デジタル臨調、デジタル田園都市国家構想などの動向を踏まえて、本市として取組が必要な視点などを重要視



(2) 今後のスケジュールについて

- ・ 将来像・ロードマップを踏まえたプロジェクトチーム(骨子)
- ・ 推進チームの検討状況の共有
- ・ 令和5・6年度の取組方針(骨子)の提示
- ・ **令和5年度DX予算方針(案)の協議**

第2回本部会議：6月28日

全庁へ方針等通知(6月：令和5年度DX予算)

- ・ プロジェクトチームの論点共有
- ・ **令和5・6年度取組方針(案)の協議**
- ・ 導入計画書の通知(案)の報告

第3回本部会議：7月20日

- ・ **令和5・6年度取組方針の最終確認**
- ・ 導入計画書の提出状況 等

第4回本部会議：9月or10月で調整中

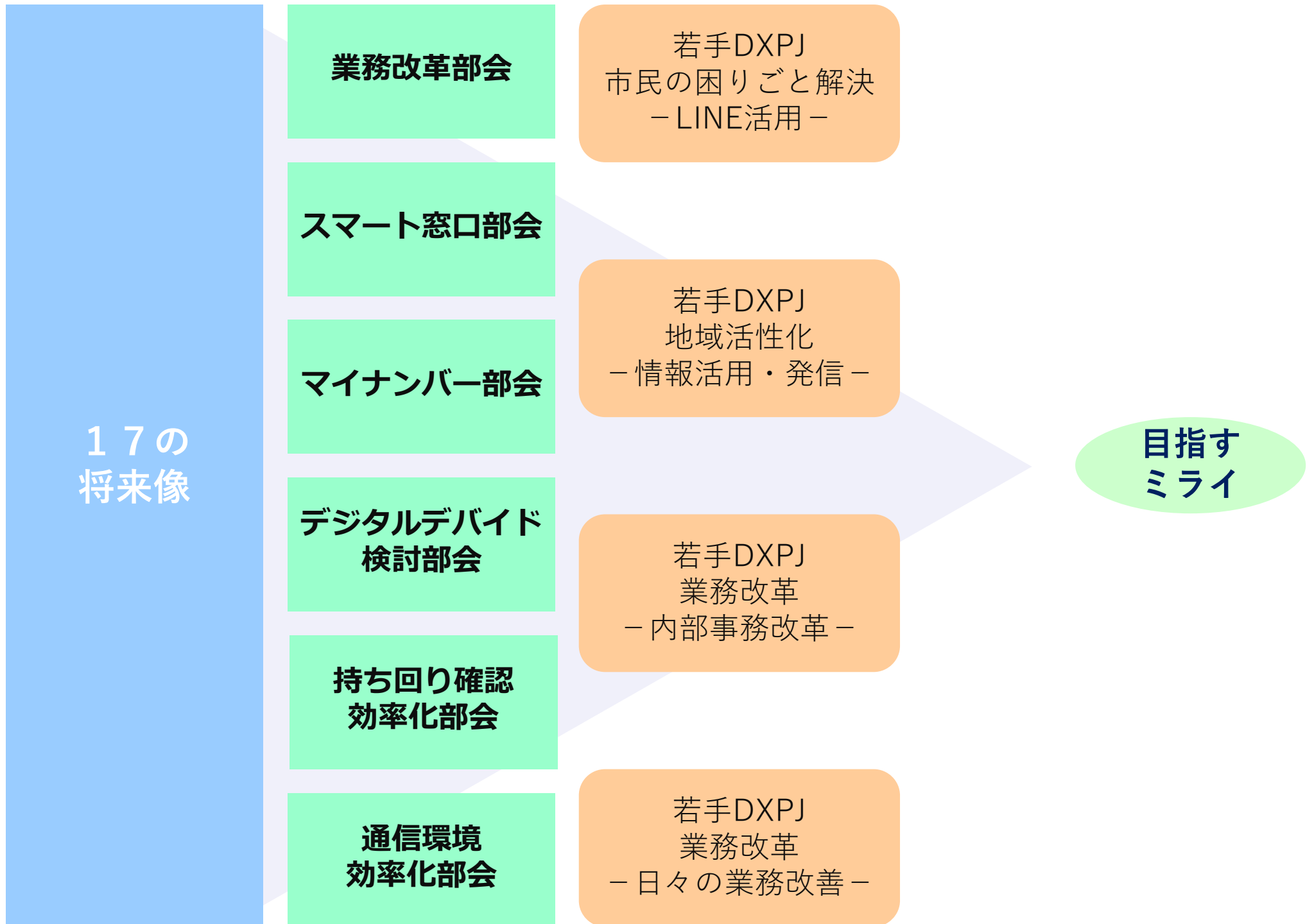
全庁へ方針等通知(秋頃：令和5・6年度取組方針)

DXの目的・ 戦略が果たす役割

- DXはデジタル技術の活用によって、組織の経営・あらゆるサービスなどを変革・改革していくことです。今までにない「つながり」、そこから「つくられる」新たなサービス、そしてそれらを楽しみながら暮らしを楽しめる新たな豊田市を創出していくことが、DXの役割です。そして、デジタル技術を活用しつつ、8次総合計画に掲げる将来都市像を実現していくことがDXの目的そのものです。
- 今後の社会においてDXが果たす役割は、広範囲に渡って・非常に深く、新たな価値を創出することであることから、豊田市におけるDXを推進することで8次総合計画の実現につなげていきます。

DXの定義

- デジタル技術を時勢に応じて取り入れ、市民・地域・企業・市役所がつながり、変革により新たな行政サービス・組織・プロセスを創り出すことで、常に将来を見据え、暮らしが楽しめる新たな価値を生み出すこと。



実際の体験から考えるとどうなるか

(将来像・部会・若手DXPJを体験に落とし込んで言葉にしてみると)

1 顧客（市民）目線でCXの向上

- 超「楽」に手続きを済ませてもらう。
- 手続き（負荷）＞恩恵はありえない。

2 市民サービスの質の向上、豊田市全体の地域活性化・効率化

- このサービスを受けたかったんだよ。助かった。
 - 知りたい情報が簡単に見つかったよ。助かった。
- 確度を上げていく
必要（市民満足）

3 「システムの分断⇒人によるカバー」をゼロ

- 超「楽」に作業を済ませよう。職員の作業のミスゼロへ
- 作業（負荷）＞成果はありえない。

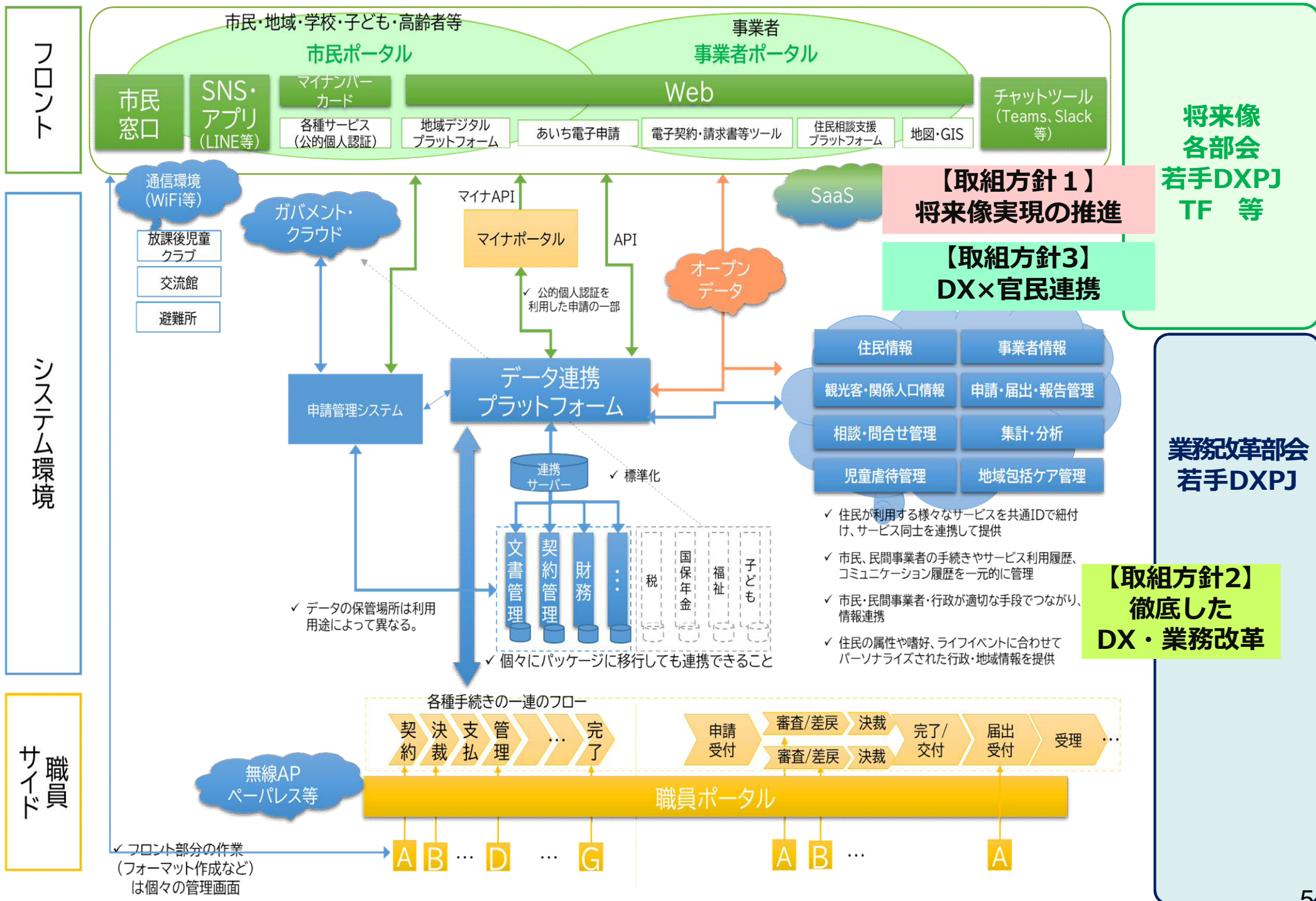
全ての実現を目指すべき&トータルで考えるべき

—内容として当たり前を実現すべきことのはず—

(今、トータルで考えて、変えていかなければ10年後も変わらない。)

(市民と市役所、市民同士、職員同士の情報の流れを再構築すべきとも言い換えられる。)

2 将来像～各部会・若手DXPJを踏まえて改めて豊田市が目指すものは何か



**【取組方針1】
将来像実現の推進****【考え方】**

- 3年後の将来像に向けて**着実に取組を前進させ、実装化**すること。そして、**10年後の将来像へ一歩でも近づけていく**。
- 3年後・10年後の将来像については、**常に技術動向や政府方針等を踏まえ、随時更新**しながら、新たな取組を検討・実証・実装していく。
- また、**自らの職務の枠に捉われない、若手職員や民間企業からの提案など自由なアイデアの実装**に向けて、常に情報収集をしながら更に深堀・実証していく。

【具体的な取組】

- ①各部室局の将来像・ロードマップのバージョンアップ
 - ・本部員のリーダーシップで、10年後・3年後の将来像・ロードマップを常にバージョンアップ。位置付けた内容は、重点目標等に位置付け、着実に実施する体制を部局内で構築する。
 - ・その際、府省庁方針や予算、民間企業の動向などを取り込み、実現可否に捉われず斬新なアイデアを位置付ける。
 - ・デジタル化推進本部では、これらを共有するとともに、チャレンジしていくことをバックアップ(投資等)していくこととする。
- ②将来像を起点とした民間企業との連携
 - ・先進的な取組を行っている民間企業との連携など、民間企業のノウハウを効果的に取り入れDXを加速させる。そのベースは常に将来像を起点とする。
- ③①・②を踏まえた府省庁予算・企業版ふるさと納税等の積極的活用
 - ・①と②の取組を繰り返していく中で、常に国の補助金等の動向や企業版ふるさと納税の提案などを積極的に収集し、これらを積極的に活用する。

【検討・実施体制】

- デジタル化推進本部会議・デジタル化推進チーム
- 将来像等の内容を踏まえて、新たな部会や若手チームを形成していくことも想定
- 各部局内での検討チーム・部会等

【取組方針2】 徹底した DX・業務改革

【個別方針】

- **既存ツールの徹底的な活用**、部会や推進チームでの議論を踏まえた**内部事務改革(BPR等)**、効率化を着実に実行に移していく。
- それらの取組をベースにしなが、**全業務における徹底的なDX・業務改革**を推進。
- **令和3・4年度の取組方針1・2を継続的に実施**し、市民サービスの向上を図る。

【具体的な取組】

- ① 各種手続のオンライン化への移行完了(オンライン化率：100%) (※)
 - ※国・県の法律等でオンライン化が適当でない手続等を除くが、対面のやり取り・物理的授受を伴う申請なども対象。
 - ・オンライン対応可能な手続きについては、市民や事業者が申請できるような環境を整備する。その際、申請者側・運営側(市役所)双方が利用しやすいシステムを採用。
- ② キャッシュレス決済の推進
 - ・支払いが伴う手続きについて、80%はキャッシュレス対応可能とする。
- ③ 既存ツール等を活用した日常的な業務改善(BPR)の着実な実施
 - ・各課が自走型でBPRを実施可能とするための研修等の実施(期間限定)。
 - ・既存ツールを使いこなすための研修等の実施(期間限定)
 - ・これらを推進するための民間企業・人材の積極的活用(期間限定)
- ④ 業務改革部会の目指す姿の実現
 - ・令和4年度中に方向性をとりまとめ、令和5年度から必要な体制を整え、具体的なシステム導入や改修・実証を進める。
- ⑤ スマート窓口部会
 - ・令和4年度中に方向性をとりまとめ、令和5年度から具体的な取組を実施する。
- ⑥ ペーパーレスの徹底、フリーアドレスの推進、それに付随する庁内環境の改善
 - ・ペーパーレスの徹底：複合機削減(ex：各フロア1台等)+アクセスポイント・モニター増設
⇒2022年度比：40%削減(2024年度末)
 - ・フリーアドレスの推進：DX時代に即した働き方の推進
- ⑦ マイナンバー部会、持ち回り確認効率化部会など
 - ・市民・職員にとってこれまで非効率だった行政サービス・手続きについて、より効率的な手法を検討・検証・実装していく。

【検討・実施体制】

- 各部会
- デジタル化推進チーム
- 各課

【取組方針3】 DX×官民連携

【個別方針】

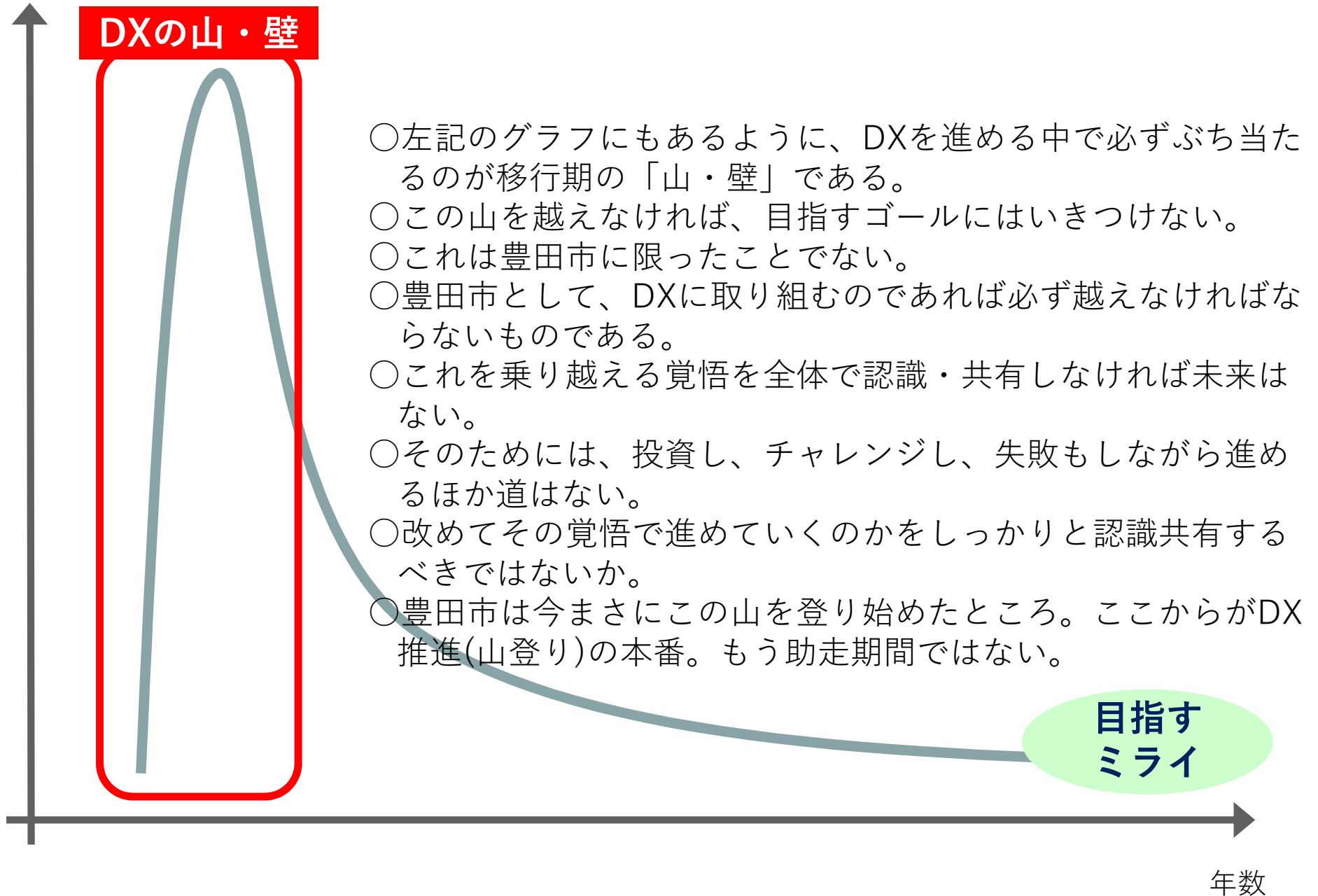
- 豊田市オープンデータガイドライン(改定版)により拡充された**オープンデータを活用した官民連携**を促進する。
- デジタル田園都市国家構想などに鑑み、**データを活用した施策・サービス構築、オープンデータの拡充を加速**するとともに、**民間企業など一層の連携**を図る。
- 官(市役所)だけで実施できることは限られている認識のもと、方針1・2を推進していくためにも民間との連携は必須である。積極的に民間連携に取り組み、実証なども積極的に実施していく。
- 民間との連携はシステムなどだけでなく、**人材面での連携も視野**に入れて取り組む。

【具体的な取組】

- ①データを賢く活用した新たなサービス構築
 - ・推進チームでの検討事項や3D(プラトール)の取組なども踏まえて、データを活用した新たなサービス構築については、実証なども活用しながら取組を進める。
- ②府省庁予算・企業版ふるさと納税等の積極的活用(再掲)
 - ・①での取組などにおいては、常に国の補助金等の動向や企業版ふるさと納税の提案などを積極的に収集し、これらを積極的に活用する。
- ③民間からの副業人材など、多様な手法による外部人材を活用したDXの推進
 - ・DX推進においては、内部人材だけではノウハウが不足する面も多々あることから、民間の副業人材なども積極的に活用しながら各課に対して伴走型支援をしながら取組を加速させていく。

業務
負荷

DXの山・壁

目指す
ミライ

年数